

#### 4. 調査結果(事例調査)

日本障害者スポーツ協会の公認スポーツ指導員の活動状況やニーズが質問紙調査の結果から確認できた。資格取得の経緯や指導している種目など、指導の実態をより詳細に把握するため、指導者個人に対してヒアリング調査を行った。指導者の養成と活用・連携における特徴的な2県の取組みとあわせて事例報告する。

図表 4-30 事例調査で対象とした指導者個人の概要

資格種別	個人の概要
初級指導員	事例① 20代女性・障害者施設職員・認定校で資格取得 事例② 50代男性・会社員・パラリンピアン 事例③ 70代男性・無職・日体協公認ジュニアスポーツ指導員ほか資格多数
中級指導員	事例① 30代女性・県障害者スポーツ協会職員 事例② 40代女性・会社員・日体協公認指導者
上級指導員	事例① 40代男性・福祉センター職員 事例② 60代女性・主婦・日体協公認指導者

図表 4-31 事例調査で対象とした指導者関連組織の概要

自治体名	組織名	指導者名称	人数
長野県	NPO 法人長野県障がい者スポーツ協会	(日障協)障害者スポーツ指導員	445
	長野県障害者福祉センター(サンアップル)	地域スポーツ支援リーダー	20
秋田県	一般社団法人秋田県障害者スポーツ協会	スポーツ推進員	3
	秋田県障害者スポーツ指導者協議会	(日障協)障害者スポーツ指導員	135

## (1)日本障害者スポーツ協会公認指導員の個人事例

### 【初級指導員】

#### 事例① 20代女性・障害者施設職員・認定校で資格取得

資格取得の経緯	小学5年生の時にみた、長野パラリンピックでのアイススレッジホッケーに感動して福祉の道を目指す。日本障害者スポーツ協会の資格取得認定校で、資格を取得。
資格の状況	初級(2009年) ＜その他の資格＞ ホームヘルパー2級
主な活動状況など	◆指導種目:特に指導はしていない(大会・イベント等の補助的活動。一緒にプレーをすることもある)。 ◆対象:身体障害者、知的障害者、視覚障害者の、子どもから高齢者 ◆活動回数:1年に数回(土・日も仕事のため、活動時間がとれない)
主な活動場所	福祉センターでの大会・イベント

#### 事例② 50代男性・会社員・パラリンピアン

資格取得の経緯	現役引退後、有資格指導者のサポート役として、車いすテニス、車椅子バスケットボールなどの指導をしてきた。自身が主たる指導者となる教室を開催するにあたり、必要と感じて資格を取得した。資格取得時の養成講習会は肢体不自由以外の障害に関する知識と理解を深める機会にもなった。
資格の状況	初級(2012年)
主な活動状況など	◆指導種目:車いすテニス、車いすバスケットボール、車いすでの動き方など。 ◆指導対象:身体障害者および健常者の、子どもから高齢者(総合型地域スポーツクラブの会員など)。 ◆活動回数:月に2~3回程度
主な活動場所	総合型地域スポーツクラブ、福祉センター、子ども向けのイベントなど

#### 事例③ 70代男性・無職・日体協公認ジュニアスポーツ指導員ほか資格多数

資格取得の経緯	当時はじめたスケートのスポーツ少年団に、障害児(知的障害・身体障害)がおり、体力づくりを目的とする子、パラリンピックを目指す子など目的が様々で、知識・情報を得るために資格を取得。
資格の状況	初級(1999年) ＜その他の資格＞ 日本体育協会公認指導者(ジュニアスポーツ指導員) スポーツ少年団認定育成員、スポーツ少年団体力テスト判定員 日本レクリエーション協会公認レクリエーションインストラクター、教員免許 健康運動指導士、審判員資格(日本スケート連盟、日本ゴールボール協会)
主な活動状況など	◆指導種目:陸上、水泳、ボッチャ、ペタンク、フロアホッケー ◆指導対象:知的障害者、車いす・介助つきの障害者の、子どもから高齢者 ◆活動回数:週に1回程度
主な活動場所	福祉センター、地域のスポーツクラブ、大会・競技会など

## 【中級指導員】

### 事例① 30代女性・県障害者スポーツ協会職員

資格取得の経緯	体育系大学を卒業し、高校で保健体育の講師を3年間務めた後、協会に就職。就職後、協会主催の養成講習会で初級の資格を取得。
資格の状況	初級(2009年)～中級(2012年) <その他の資格> 教員免許(中学・高等学校保健体育一種免許状)
主な活動状況など	◆指導種目:水泳、知的障害者バスケットボール、ボッチャ、精神障害者バレーボール、フライングディスク、卓球バレー、ふうせんバレーボールなど。 ◆指導対象:身体障害、聴覚障害、視覚障害、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害の、子どもから高齢者 ◆活動回数:ほぼ毎日
主な活動場所	職場主催の教室・大会、福祉施設・支援学校等への出前指導、総合型地域スポーツクラブなど

### 事例② 40代女性・会社員・日体協公認指導者

資格取得の経緯	日体協の公認指導者を対象に、日障協が中級指導員の養成講習会を開催していることを、日体協の情報誌で知り受講。
資格の状況	中級(2001年) <その他の資格> 日体協公認スポーツ指導者(水泳) 日本身体障害者水泳連盟公認指導員、公認技術員 教員免許(保健体育)
主な活動状況など	◆指導種目:水泳、ボッチャ、卓球バレー、カローリング、フライングディスクなど ◆指導対象:知的障害、身体障害(脳性まひ、切断者含む)の軽度から重度の子どもから大人。健常者は障害者の兄弟姉妹や保護者が中心 ◆活動回数:週に2～3回程度
主な活動場所	総合型地域スポーツクラブ、大会・競技会など

## 【上級指導員】

### 事例① 40代男性・福祉センター職員

資格取得の経緯	体育系大学を卒業後、福祉センターにスポーツ担当者として採用。就職後、センター主催の養成講習会で初級の資格を取得。
資格の状況	初級(1992年)～中級(1997年)～上級(2007年) <その他の資格> 日本障害者フライングディスク連盟公認指導員 教員免許(中学・高等学校保健体育一種免許状)
主な活動状況など	◆指導種目:フライングディスク、車いすでの軽スポーツ ◆指導対象:身体障害の、20代～40代の成人 ◆活動回数:週に2～3回程度
主な活動場所	福祉センター、大会・競技会、講習会など

### 事例② 60代女性・主婦・日体協公認指導者・スペシャルオリンピックス認定コーチ

資格取得の経緯	国民体育大会で卓球の審判をした後、続いて開催された全国身体障害者スポーツ大会でも審判を行ったのを機に、障害者スポーツに関わるようになる。福祉センターで知的障害者への卓球指導をはじめると同時に初級資格を取得。その後、同センターで脳血管障害者向けの卓球リハビリ教室を開催しており、中級資格も取得。その教室を地域の公民館で展開し始める際に、上級資格を取得。
資格の状況	初級(1998年)～中級(2005年)～上級(2008年) <その他の資格> 日体協公認スポーツ指導者(卓球) スペシャルオリンピックススポーツトレーナー(卓球) 国際卓球連盟国際審判員
主な活動状況など	◆指導種目:卓球 ◆指導対象:身体障害、知的障害の、子どもから高齢者 ◆活動回数:週に2～3回程度
主な活動場所	公民館、福祉センター、大会・競技会など

## (2)指導者関連組織の事例

---

### NPO 法人 長野県障がい者スポーツ協会

#### 長野県障がい者スポーツ協会職員が県障害者スポーツ指導者協議会の事務局を兼任 協会登録スポーツボランティア制度を設ける

##### 1. 設立の経緯

1998年開催の長野パラリンピックに向けて、選手強化と障害者スポーツの振興を目的に1994年4月に任意団体として設立し、2006年にNPO法人化した。なお、長野県障害者スポーツ指導者協議会(2012年11月現在、会員数445人)は1989年7月に設立し、協会に事務局を設置している。

##### 2. 指導者の状況：障害者スポーツ指導員(445人)

###### 【属性・活動状況】

- ・ 資格種別：初級 377人(87.1%)、中級 42人(9.7%)、上級 14人(3.2%)
- ・ 性別：男性 239人(54.3%)、女性 201人(45.7%)
- ・ 年代別：20代 95人(21.8%)、60代 90人(20.7%)、40代 79人(18.2%)の順に多い。資格取得認定校が2校あるため20代の割合が多いが、実際に活動しているのは50～60代が中心
- ・ 活動実績：協会への活動一年間12回、148人が協力・参加  
各団体への活動一年間6回、26人が協力・参加
- ・ 指導種目：障害者スポーツ大会で実施される種目は全て対象になり、陸上、水泳、野球、スキー、ボウリング、バスケットボール、卓球などの指導者が多い。
- ・ 他の資格の保有状況：教員免許の保持者が多く、他にホームヘルパー、介護福祉士、健康運動指導士、理学療法士などがある。日本体育協会公認スポーツ指導者では、協会では把握できているだけでも競技別指導者が7人、ジュニアスポーツ指導員とスポーツ少年団認定員がともに3人、スポーツプログラマーが2人いる。

###### 【指導者養成・研修】

- ・ 初級スポーツ指導員の養成研修会を年1回、県内4ブロックを毎年ローテーションして実施している。2012年は東信地域で開催し、25人が受講、うち22人が修了した。
- ・ 初級は3日間の講座で、日障協で決められたカリキュラムに則って行っている。平日だと参加が難しい受講希望者もいることから、2012年は海の日を含む3連休に開催した。
- ・ 研修会参加者は50～60代が多く、職業では「余暇活動のノウハウを学びたい」との目的を持った福祉施設職員が多い。その他は特別支援学校の教員などである。

###### 【指導者養成にかかる予算】

協会の年間事業予算(2012年度)は約4,000万円。初級の障害者スポーツ指導員養成研修会は、県から受託して協会が実施している。予算は約25万円であった。その他、地域に指導者を派遣する地域スポーツ活動支援事業に30万円が計上されている。大会実行委員会からの受託事業である長野車いすマラソン大会運営事業(1,681万円)、県の補助事業である全国障害者スポーツ大会派遣事業(1,196万円)の2事業で全体の7割を占める。

### 3. その他の人的資源

#### 【協会登録スポーツボランティア制度／チャレンジドキッズクラブサポーター】

協会の登録スポーツボランティアとチャレンジドキッズクラブサポーターの概要を図表 4-32 に示した。登録スポーツボランティアと障害者スポーツ指導員の有資格者は重複する人も多い。

図表 4-32 協会登録スポーツボランティアとチャレンジドキッズクラブサポーターの概要

	協会登録スポーツボランティア	チャレンジドキッズクラブサポーター
開始年	2007年	2008年
目的	協会主催事業に指導者やサポーターとして関われる者を募集登録する	サポーター養成研修会を受講後に登録し、障害児の活動をサポートする
登録者数	個人:50人、団体:4団体 (学校2校、ボランティア団体2団体)	個人:68人
活動謝金	1日3,000円(半日1,500円) 交通費実費支給	1日3,000円(半日1,500円) 交通費実費支給

注) チャレンジドキッズクラブとは、障害のある0歳以上18歳未満を対象にしたスポーツの機会提供事業のことで、個人・団体での利用が可能。利用する際は、まず協会に要望を連絡し、協会が適した指導者を指導協から派遣する(用具も原則協会が用意をする)。学校へのサポートも行っており、学年単位のスキー体験会の際に、車いすの子どもと一緒にスキーを体験できるようにバيسキーの指導者等も派遣している。

### 4. 他の組織との連携

- ・ 全国障害者スポーツ大会やジャパンパラ競技大会への指導者派遣は、日本障害者スポーツ協会と連携
- ・ ジャパンパラ競技大会のスキー大会(アルペンスキー、クロスカントリースキーなど)は長野開催が多く、指導者の派遣人数は多い。2011年度大会では、のべ13人を派遣した。

### 5. 障害者スポーツ指導者の問題点・課題

- ・ 実際に活動できる指導者の人数の不足と、仕事や家庭との両立が難しく、継続的な指導をできる人が少ない。
- ・ 県指導協の指導者の高齢化。指導者資格の認定校では若い人も資格を取得しているが、資格取得以降活動せず、更新も行わない者が多い。
- ・ 障害者スポーツへの参加目的として「リハビリ」「体力づくり」「社会参加」「競技力向上」があるが、競技力の向上を目的とした指導に対応できる指導者が少ない。一般の競技の指導者資格を持った人が、障害者の適性を理解して指導してもらえれば良いが、そうした指導体制が県内にはまだ整っていない。

#### NPO 法人 長野県障がい者スポーツ協会の概要

- 所在地:長野県長野市下駒沢 586(サンアップル内)
- 設立年:1994年設立、2006年にNPO法人化
- 会員数:正会員-55人、会員-個人117人、家族会員4件
- 会費:正会員-個人3,000円、団体10,000円、  
会員-個人2,000円、家族会員3,000円
- 職員数:8人



## 長野県障害者福祉センター（サンアップル）

**独自の指導者「地域スポーツ支援リーダー」を養成  
県内3ヵ所にサテライト施設を設置し、地域での  
支援活動を展開**



### 1. 開設の経緯

1998年にスポーツ、レクリエーション、文化活動等を通じて障害者の健康増進と社会参加の促進を図るべく中核施設として長野市（北信）に「長野県障害者福祉センター（愛称：サンアップル）」を開設。利用者数は14年間でのべ175万人を超えた。

その後、県内の高齢化と障害者の増加に伴い、2003年から県内3地域（中信・東信・南信）にサンアップルのサテライト施設としてサンスポーツを設置し、地域スポーツ支援リーダーや地域のサポートスタッフ（ボランティア）の協力を得ながら、地域での運動・スポーツ支援活動を展開している。

### 2. 指導者の状況：地域スポーツ支援リーダー（20人）

地域スポーツ支援リーダーは、サンアップルが地域ネットワークの中心となる人材養成と、多様なニーズに対応し、継続した活動ができる人材の確保を目的として2000年から養成している。

#### 【対象者となる条件】

- ・ 資格条件：障害者のスポーツ指導・支援経験者で以下の資格を有する者  
理学療法士、作業療法士、保健師、看護師、健康運動指導士（実践者含む）、日本レクリエーション協会公認レクリエーションインストラクター、スイミングインストラクター、障害者スポーツ指導員
- ・ 活動条件：プール活動ができること、レクリエーション活動がサポートできること
- ・ 募集方法：研修終了生から次期候補者を推薦で募って養成する仕組み。広く募集は行わない。質の担保と人材の確保を図っている。每期10人程度が3年間研修を実施。2012年度で4期生となる。

#### 【属性・活動状況】

- ・ 性別：男性7人（35.0%）、女性13人（65.0%）
- ・ 年代別：40代9人（45.0%）、30代5人（25.0%）、50代・60代が各3人（15.0%）の順に多い。
- ・ 資格の保有状況：健康運動指導士・スイミングインストラクターが各4人、理学療法士・フリーのインストラクターが各3人。障害者スポーツ指導員資格の保持者は17人であるが、地域スポーツ支援リーダーになってから取得している。
- ・ 活動謝金：1時間あたり3,000円と交通費がサンアップルから支給される。
- ・ 土日しか活動できない人もいるが、稼働率は7～8割程度
- ・ 指導者の負担にならないよう、1団体への派遣は年5回までと制限し調整している。
- ・ 職員が入らずに地域スポーツ支援リーダーのみで活動する場合もある（その場合は、報告で現状把握する）。
- ・ 地域スポーツ支援リーダーはボランティアではなく、サンアップルの職員と同じ指導の技術レベルを持ち、職員と同じユニフォームを着て活動している。
- ・ 地域スポーツ支援リーダーのうち、サンアップルからの要請以外にも独自に地域の施設と個人契約し

て活動を行う者もいる。障害者スポーツに関わる指導者として、ボランティアでなく報酬を得ながら活動している。

- ・活動回数:サンアップルとサンスポートでは、年間 568 回(2011 年度)と非常に多くの出張スポーツ教室を行っている(図表 4-33)。

**図表 4-33 サンアップル、サテライト施設サンスポートの概要**

名 称	長野県障害者福祉センター	障害者スポーツ支援センター駒ヶ根	障害者スポーツ支援センター松本	障害者スポーツ支援センター佐久
愛 称	サンアップル	サンスポート駒ヶ根	サンスポートまつもと	サンスポート佐久
地 域	北信(対象は県内全域)	南信	中信	東信
設置年	2002年	2003年	2006年	2009年
事務局	サンアップル	長野県看護大学プール棟内	松本市社会福祉センター	総合福祉センター「あいとびあ臼田」内
活動場所	サンアップル	看護大学プール	市町村の体育施設	市町村の体育施設
主な事業	定期教室、出張スポーツ教室、大会・記録会、サポートスタッフ(ボランティア)研修会など			
出張スポーツ教室概要	車いすスポーツやレクリエーションなど、7施設にのべ11回、235人参加	リズム体操、ストレッチなど、32団体にのべ81回、1,849人参加	水中運動、水泳、ポッチャなど、36団体にのべ204回、3,287人参加	水泳、卓球、サッカーなど、41団体のべ272回、5,342人参加

### 【指導者養成・研修】

研修カリキュラムは、3年間、毎年6日間の講義・実技研修を受けてレポートの提出を行い、最終年度に学科試験・実践活動評価を経て、合否判定のもと認定される。実技研修では、既にリーダーとなっている指導者または、センターの職員とともに活動現場に赴き、実際に指導案を書き、指導者とともに指導する。

### 【指導者養成にかかる予算】

地域スポーツ支援リーダーは、1時間あたり3,000円と交通費がサンアップルから支払われるが、研修受講者の段階でも、地域で活動した場合にはサンアップルより、1時間あたり2,000円と交通費が支払われる。これらの財源は、サンアップルの指定管理を受ける際に、年間40回分の活動の予算(約40万円)を計上している。

## 3. その他の人的資源

### 【サポートスタッフ登録制度】

- ・各サンスポートで、事業を支えるボランティアとして「サポートスタッフ」の登録制度がある。各地域のインストラクターや障害者スポーツ指導員、学生等を対象に、「サポートスタッフ講習会」を開催し、登録者を募っている。終了後はサポートスタッフとしてサンアップルや各サンスポートの大会・行事や教室プログラムなどで活動する。
- ・講習会の内容:サンアップルやサンスポートの事業内容の理解と障害のある人とのスポーツ体験など。
- ・登録状況:サンスポート駒ヶ根 18人、まつもと 22人、佐久 20人(2012年度)

## 4. 他の組織との連携

- ・地域スポーツ支援リーダーに求められる活動は、競技スポーツ以外の部分であるため、指導している障害のある人が、より専門的な競技力向上を目指した指導を希望する場合には、サンアップルの職員が間に入って、障害者スポーツおよび一般の各競技団体等への紹介等を行う。
- ・障害者の水泳大会を開催する際に、長野県水泳連盟にも関わってもらっている。これを機に、軽度障害であれば一般のプールでも泳ぐことが可能であることから、障害者の対応が可能なスイミングスクール



をサンアップルが紹介し、逆に一般のスイミングスクールで泳いでいる聴覚障害者に、障害者の水泳大会を案内し参加してもらうなど、互いに協力関係を築いている。

- ・ 2010 年度からサンアップルと長野県障がい者スポーツ協会で始めた「障害者スポーツ研修会」に、障害の無い人を対象に指導することが多い健康運動指導士会長野県支部にも協力を要請し、3 者で障害者スポーツに関する情報共有を目的とした研修会を開催している。

## 5. 障害者スポーツ指導者の問題点・課題

- ・ 新たな地域スポーツ支援リーダーを、3 年に 1 度の各期に 8～10 人は確保したい。地域の核となる人材が育たなければ意味がない。現状、地域では介助などの支援者は多くても指導できる人が少ない。
- ・ スポーツ関係者は、障害者スポーツに関心はあっても障害者の対応に不安があるため、具体的な協力や参加につながらない。
- ・ 健康運動指導士やスポーツ推進委員は、地元で根ざして活動しているが、いずれも高齢化が課題である。日本体育協会の公認スポーツ指導者は、熱心で意欲的ではあるが、運動技能を高めることを重視する傾向がある。総合型地域スポーツクラブの関係者が障害者に対応したいという理由で研修会に参加したケースがあり、今後連携を図っていきたい。



サンアップル出張スポーツ教室の様子



地域スポーツ支援リーダーの指導風景

### 長野県障害者福祉センター(サンアップル)の概要

○所在地:長野県長野市下駒沢 586

○開 設:1998 年

○運 営:社会福祉法人 長野県社会福祉事業団

○施設概要:体育館、屋内温水プール、陸上競技場、テニスコート、アーチェリー場、遊戯室、卓球室、盲人卓球室、トレーニング室、宿泊施設(和室 3 室、洋室 3 室)他

○職員数:32 人(所長 1 人、総務課 10 人、スポーツ課 21 人:うち、サンアップル 13 人、サテライト 3 施設 8 人)

○サテライト施設:障害者スポーツ支援センター駒ヶ根(サンスポート駒ヶ根)、障害者スポーツ支援センター松本(サンスポートまつもと)、障害者スポーツ支援センター佐久(サンスポート佐久)

※各サテライト施設の人員体制:サンアップルサンアップル正規職員(1 人)、サンスポート臨時的任用職員(1 人)、地域スポーツ支援リーダー、サポートスタッフ(ボランティア)

# 一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会 秋田県障害者スポーツ指導者協議会

スポーツ推進員の雇用と出張指導（協会）

総合型地域スポーツクラブとの連携事業を実施（協会）

障害者スポーツ団体連絡協議会を開催し、諸課題の検討・解決を図る（協会／指導協）

## 1. 設立の経緯

2007年開催の第7回全国障害者スポーツ大会「秋田わか杉大会」に向けて、2001年に秋田県障害者スポーツ協会、2002年に秋田県障害者スポーツ指導者協議会が設立

## 2. 指導者の状況

### **【協会】：スポーツ推進員(3人)**

スポーツ推進員は、県内の障害者スポーツ指導の中核となる人材として、協会が職員として雇用している指導者である。

- ・ 性別および年代:30代の男性1人、女性2人
- ・ 資格:障害者スポーツ指導員資格(初級2人、中級1人)、  
3人とも体育系大学を卒業しており、中学・高校保健体育教員免許を保有
- ・ 活動回数:出張指導だけでも県内全域を土日も含めて年200件ほどを行っている(2011年185回、2010年222回)。依頼主は、障害者団体、障害者競技団体、特別支援学校、障害者関連施設、個人など。
- ・ 活動場所:学校やスキー場、スケート場、市の体育館・プールなどさまざまである。冬場は特別支援学校のスキー・スケート支援も多い。
- ・ 活動謝金:県の委託事業によりスポーツ推進員を採用しているため、出張指導は無償で実施している。
- ・ その他:スポーツ推進員が依頼を受けて活動する際に、サポートスタッフが必要な場合は、指導協の指導員や競技団体に協力を仰いでいる。なお、地域からの依頼に対して指導協の指導員のみで対応することはない。

### **【指導協】：障害者スポーツ指導員(135人)**

- ・ 資格種別:初級77人(57.0%)、中級24人(17.8%)、上級3人(2.2%)、障害者スポーツコーチ2人(1.5%)、  
各競技審判員など。
- ・ 性別:男性76人(56.3%)、女性59人(43.7%)
- ・ 年代別:60代40人(30.0%)、50代・40代各27人(20.0%)  
秋田県には資格取得の認定校がないため10代・20代は少ない(10代1人、20代2人)。
- ・ 活動謝金:原則なし。協会主催事業への派遣の場合は、協会より活動謝金1回1,000円を支給
- ・ その他:日障協登録の秋田県のスポーツ指導員は220人で、その内の6割しか県の指導協に登録していない。一方、県の指導協に登録しているが日障協には登録していない指導員もいる。その理由の一つとしては、日障協への登録料が3,500円で、さらに秋田県の場合は指導協への会費にも1,000円がかかるためである。

### 3. 指導者養成・研修

#### <協会>

- ・ 秋田県障害者スポーツ協会が、初級スポーツ指導員の養成講習会を年 1 回実施している。2012 年は 10 人が受講し、うち、総合型地域スポーツクラブ関係者が 2 人、スポーツ推進委員が 2 人含まれていた。
- ・ 競技審判員や補助員の養成を行っており、2012 年度はサウンドテーブルテニスと卓球バレーを対象とした。

#### <指導協>

- ・ 障害者スポーツ指導員に対して、自主事業で実技研修を年 2 回実施し、コートの作り方や審判の仕方を再確認している。2012 年はフロアカーリングとボッチャを対象とした。研修の対象は登録者全員であり、参加は 40 人程度で 40～50 代が多い。会員ではないがホームページを見て障害者関連施設から参加する人もいる。

### 4. 指導者養成等にかかる予算

#### <協会>

協会の年間事業予算(2012 年度)は、約 3,000 万円。初級の障害者スポーツ指導員養成事業は、約 40 万円(1.3%)スポーツ推進員の設置事業費として 1,192 万円(38.2%)が計上されており、ともに県の委託事業である。

#### <指導協>

指導協の年間事業予算(2012 年度)は 36 万円。指導者養成に関連する費用は、実技研修会事業費の 7 万円(19.4%)である。なお、収入は主に会費収入 14 万円(一人当たり 1,000 円)と、日障協からの還付金 19 万円が主となる。還付金とは、日障協から各地域ブロックに登録料の一部が還元される仕組みのことで、日障協への毎年の登録料(一人当たり 3,500 円)から東北ブロックに還付された 1,000 円のうち、一人当たり 800 円が県の指導協に還元される。

### 5. 組織間の連携状況

#### <協会／指導協>

- ・ 協会は教室・各種大会の開催、全国大会への選手の派遣、県内障害者への運動指導などの事業を実施する際に、必要に応じて指導者や審判員としての障害者スポーツ指導員の派遣を指導協に依頼し、指導協は指導員の調整・確保を行う。
- ・ 協会は、日本障害者スポーツ協会からの委託事業「地域における障害者スポーツの推進事業」を、2012 年から 3 年間実施している。在宅障害者と総合型地域スポーツクラブとの交流を進め、地域で安全かつ継続的なスポーツ活動ができる環境の整備を目的としている。指導協の障害者スポーツ指導員もクラブでの活動をサポートする。現在、対象となっているクラブは、秋田市グリーンスポーツクラブ、横手市大森スポーツクラブさくら、三種町の 3 クラブ(琴丘スポーツクラブ連盟、山本地域スポーツクラブ、八竜地域スポーツクラブ)である。
- ・ 秋田県障害者スポーツ団体連絡協議会(指導協を含む 17 団体が構成)を年に 2 回開催し、各団体が抱える諸課題を検討し、解決を図っている。以前、県内に障害者専用のプールが無いため、障害者スポーツ競技団体から一般のプールの利用要望を受け教育委員会等へ相談・調整し、一般のプールの利用を可能にした例がある。

#### <協会>

- ・ 秋田県特別支援学校体育連盟の大会へスポーツ推進員を派遣している。また、知的障害者バスケット

ボールについては、強化チームのスタッフとしてスポーツ推進員が1人関わっている。

- ・秋田県体育協会(県体協)には、総合型地域スポーツクラブとの連携事業を実施する際の、候補となるクラブの選定および連絡調整を依頼している。また県体協は、初級スポーツ指導員の養成講習会に関する情報提供を積極的に行っており、総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーや事務局長等の受講者が増えている。
- ・理学療法士や作業療法士とは、2007年の全国障害者スポーツ大会「秋田わか杉大会」以降、県大会でもブースを作り、大会をサポートしてもらっている。
- ・県内の障害者スポーツ競技団体と連携を図り、各種大会への審判員の派遣を依頼している。

#### <指導協>

- ・県内の各障害者スポーツ団体(県身体障害者スキー協会、県サウンドテーブルテニスクラブ、県ボッチャ協会など)と連携している。
- ・一般の競技団体では、県卓球協会と連携がとれている(指導協の会長が、県卓球協会の副理事長を兼任しているため)。

## 6. 障害者スポーツ指導者の問題点・課題

#### <協会>

- ・指導者の高齢化(恒常的に活動しているのは60代)、活動できる指導者・指導員の固定化、若手指導者の育成(職場優先のため参加稼働率が低い)が課題。

#### <指導協>

- ・指導協登録者の指導員は、福祉関係者が多いため、行事や仕事が重なり派遣が難しい。また、若手指導員は夜間か早朝にしか連絡がとれず人員の確保が難しい。結果的に60代しか活動ができていない。活動できる指導員の固定化が課題である。
- ・わか杉大会終了後の登録者数の減少が課題である。
- ・事業予算の不足も課題。積極的な活動ができない。以前、ある法人から数百万円の補助金を受けたことがある。やはりボランティアでは活動に限界がある。

### 一般社団法人 秋田県障害者スポーツ協会の概要

- 所在地：秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内5階  
(秋田県心身障害者総合福祉センター同施設)
- 設立年：2001年4月。2012年10月に法人化
- 会員数：団体40、個人70人(指導員・障害者とその家族)
- 会費：団体10,000円、個人1,000円
- 事務局：4人(事務局長1人、スポーツ推進員3人)

### 秋田県障害者スポーツ指導者協議会指導協の概要

- 所在地：同上。協会内にデスクを設置
- 設立年：2002年6月
- 会費：1,000円
- 会員数：135人(会員=指導員)



スポーツ推進員の活動の様子(卓球バレー)